

2018年5月2日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

NH-3、中小企業基盤整備機構から60億円の出資を受け入れ

独立系プライベート・エクイティ・ファンドのニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区西新橋、取締役会長 安東 泰志、以下「NHC」）は30日、昨年後半に募集を開始した成長支援ファンド「ニューホライズン3号投資事業有限責任組合（NH-3）」のファンドが近日中に150億円規模に達する見込みであり、うち、独立行政法人 中小企業基盤整備機構（以下、「中小機構」）から60億円規模の出資を受けることを明らかにしました。NH-3の最終的なファンド規模は250億円程度を見込んでいます。

中小機構は、2017年7月31日に施行された「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律」（以下、「地域未来投資促進法」）に基づき、地域経済牽引事業の促進における連携及び協力を行っており、この度、地域未来投資促進法に対応するファンドとして、本組合が選定され、60億円の出資を受けることとなりました。弊社は、過去の投資案件において中堅・中小企業の事業承継・カーブアウト、成長支援、事業再生が全体の約8割を占めており、安定した投資実績と併せ地域未来投資促進法の趣旨に適合していると判断されたものと考えております。

なお、NH-3は既に事業承継・成長支援を目的に昭和コーポレーション（本社 東京都港区）への投資を実行しておりますが、その他にも多数の新規案件を検討中です。

NHC 代表取締役会長の安東泰志は「日本の産業社会において地域経済の中核を担う中堅・中小企業を中心に事業承継や企業再生・成長支援に対するニーズが拡大、業界再編を促す触媒として実績を誇るPEファンドの役割が重要性を増しています。また、多くの地域金融機関の皆様からは、金融庁が掲げる事業性評価融資の推進に際して、弊社が持つ豊富な実績とノウハウが有益であるとの高いご評価を頂いています。これからも一層実績を積み重ね、日本経済の活性化に貢献して参ります」と抱負を述べています。

以上

〈ニューホライズン キャピタル株式会社〉

成長支援、産業再編、事業再生のプロを多数擁する独立系 PE ファンド。2002 年 2 月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から 2006 年 10 月の会社分割を経て通算 15 年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額 2,600 億円超）を背景に、NHC として 3 本目、創業から 9 本目のファンドを運営しています。2002 年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとする NHC のチームメンバーは、三菱自動車、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラ、日立ハウステック、丸茂工業、まぐまぐ、iae ホールディングス、たち吉、武田産業、SnSnap、シバウラ防災製作所、川崎ホールディングス、昭和コーポレーション など、開示可能なエクイティー投資先だけで約 40 社、全体では約 100 社超の日本随一の投資実績を有しています。

この件に関する問い合わせ先：

広報担当（IFC）竹江、連絡先：03-5532-8921